

題名：令和4年度桐生市景観講演会 「ジャズのある風景 in 桐生」

桐生市では、景観行政団体になった平成25年以降、景観形成に関わる様々な取り組みを実施しており、そのひとつとして、多くの方に景観を意識し考えていただく機会となるよう、景観講演会を開催しております。今回は、桐生市出身ジャズピアニストの山中千尋さんを講師に迎え、令和5年2月16日（木）に美喜仁桐生文化会館シルクホールにてご講演いただきました。

また、講演会の関連イベントとして、パネル展を市役所1階市民ロビーにて1月10日～2月7日に開催し、当日も会場前のホワイエにて展示しました。併せて、桐生市の景観の取り組みも紹介しました。会場は連日多くの方々に賑わい、山中さんのコラムとともに、景観まちづくりを感じていただくいい機会となりました。

さて、470名を超える来場者にお越し頂いた講演会では、まず「市の取り組み」を説明し、景観形成のポイントなどをお伝えし、特に屋外広告物条例について皆様に知って頂けるようにご説明しました。

次に、「ジャズのある風景 in 桐生」と題し、桐生にちなんだ着物をお召しになってご講演いただきました。桐生だけでなく、たくさんの方々の世界の景色や街並みを見てきた経験を通して、魅力ある景観について音楽家ならではの視点からお話いただきました。

自身のピアニスト人生を振り返るとともに、桐生への愛着や、演奏活動で訪れた世界各国で遭遇したさまざまなエピソードを写真とともにご紹介いただき、イタリアのアルペロベッコという、ユニークなとんがり屋根が世界遺産となって景観をつくり出している場所でのジャズフェスティバルでは、土と藁でできた土俵のようなステージだったため、ピアノを弾いているうちにどんどん沈んで低くなってしまったという珍しい経験についてもご紹介いただきました。

自分たちの街がいかに美しいかということのを再発見すること、桐生の景観は素晴らしく、誇りに思っているということや、桐生の夕焼けはどこにもないほど素晴らしいし、私はその風景で育った。昔は桐生川が紫や緑や赤になったりしてとても楽しかったし、桐生にはとても魅力的な人がいる。また、桐生は音がとてもきれい、機織りの音、八木節のおはやしの練習、川のせせらぎ、こどもが喋る声、桐生自体の街の持つ音を大切にしたい。建物や看板だけでなく、音や人や風景など含めた景観を、桐生らしさを楽しみましょうと、音楽家の視点から景観まちづくりについて多角的にお話いただきました。最後には八木節を演奏していただき、多くの方が景観を身近に感じていただくきっかけとなる、楽しい講演会になりました。



パネル展の様子



講演会の様子



ピアニスト 山中 千尋さん



八木節を演奏していただきました